

第6回
先生たちのみがく講習会

「心に残るベスト3」



伊勢青少年研修センター

(修養団伊勢道場)

2012.1.28-1.29

「第六回先生たちのみがく講習会」

◆ 平成二四年一月二八日〜二九日

◆ (受付) 十二時半(開始) 十三時

◆ (会場) 伊勢青少年研修センター

(修養団伊勢道場)

◆ (参加人数) 86名(男性59名

女性27名)

◆ (行程)

一日目

- ① 開講式
- ② 童心行
- ③ 山元加津子先生講話
- ④ 夕食
- ⑤ 水行(みそぎ) 説明
- ⑥ 反省行
- ⑦ 水行(みそぎ)
- ⑧ 体験発表(自由参加)

二日目

- ① 乾布摩擦
- ② 静坐行
- ③ 神宮正式参拝(御垣内参拝)
- ④ 朝食
- ⑤ 赤塚高仁先生講話
- ⑥ 掃除
- ⑦ 中山靖雄先生講話
- ⑧ 閉講式

「心に残る言葉(出来事)ベスト3」

《三重県 中学一年生 男子》

1. みそぎ(水行)

体がきつかったです。「人は簡単に死なない!」
と、実感できました

2. 中山靖雄先生のお言葉

「いいこと言って、いいこととして、いいこと思
って、いい人になるう」今度から、いっぱい、い
いことをしようと思いました。

3. 夕食

僕は、エビアレルギーというわけではないので
すが、「エビ」を食べられません。なのに、夕食
で、「エビフライ」と「甘エビの刺身」を、ペロ
ッと食べることができました☆ 豚汁も、三杯お
かわりしました! あれ以来、エビフライを食べ
られるようになりました☆

《兵庫県20代 男性》

1. 山元加津子先生のお話

お母さんにさえ言葉を発しなかった女の子が、
かつこちゃんに初めて言葉を発し、それをきつ
かに彼女のお母さんにも「ママ」と言えるよう
になったエピソードを聴き、知らぬ間に涙が溢れ
ていました。娘が初めて「ママ」といった時の母親

の気持ちは、それはもう言葉にできぬものであ
つたに違いありません。しかしながら、その子が初
めに心を開いたのはかつこちゃんであったとい
うことから、親子であろうがなかるうが(血のつ
ながりがあるうがなかるうが)、本物の愛情とい
うのは必ず人に伝わるのだということを学びま
した。

私は幼いころに両親が離婚し、以来、父親の方
で育ちました。私の父は、本当に私を愛し、私を
想い、今まで育ててくれました。父親の愛情は十
分私に伝わっています。しかし、かつこちゃん
のお話を聞いていて、私は、「母親」をうまくイメ
ージすることができないことに気付きました。今
まで母親がないこと(父が再婚しているので母
親がないわけではないですが)など、気にもと
めたことはありませんでしたが、心のどこかで、
寂しいという感情をずっと抱えていたのではな
いかと感じました。

今まで知らなかった自分にも気づくことがで
き、そんな自分も大事にしようと思いました。そ
して、これから自分が親になっていくうえで、ど
うあるべきか、ということも考えようと思いま
した。

2. みそぎ(水行)

今回が初めてのみそぎでした。もちろん不安で
した。しかし、いざ川岸に辿り着き、船漕ぎ体操

を始めてからはあつという間だった気がします。身を切るような水の冷たさは知らぬ間に消え、どこか落ち着いていられた自分がいました。(体がマヒしてただけかもしれません：笑)寒さ、冷たさ、痛さと向き合うといった感じでしょうか？すごく冷静にいられることが自分でも驚きでしたが、人間ってすごいなと思いました。

3. 伊勢神宮参拝

伊勢神宮参拝も、今回が初めてでした。寺岡先生からの「参拝前お清め」の手ほどきから始まり、特別参拝まで本当に貴重な体験でした。参拝の最後に、寺岡先生が日本の神話や歴史などについて熱く熱く話されたことは、日本人が日本人らしくあるためにもう一度見直すべきことがある、立ち返る場所があるのだということを見せて下さいました。

私はまだ25歳の若造ですが、若さという勢いを存分に活かしつつ、勝ち負けや損得にこだわらず、お互いが尊重し合い、分かち合える社会になつていくよう、愛情や思いやりの精神を持ちつつ生きて生きていきたいと思えます。

1. 「若人の歌」

《北京30代 女性》

去年、初めて参加させていただいた私には「若

人の歌」に対し少なからず恐怖を感じました。それは中国人である私が、中華学校で日中間で起こった歴史を学んでいたからです。しかし今回は少しでもっと本質的な意味を見たような気がしました。ですから去年とは違った感覚で若人の歌を歌いました。

2. 日本人が再び国を愛するよう、自らの国の生い立ちを学ぶべきだとおっしゃった言葉。

普段、中国の北京で生活をして思うこと。それは、中国人は本当の意味で自国を愛しているのだろうかということ。本当に自らの国を愛するものが環境を破壊するのだろうか、自分さえよければ他人はどうでもいいという発想になるのだろうか。人を管理、統制しようとするのだろうか。日本と中国は同じアジアでも歴史的背景や環境はかなり違います。ましてや大きい国土ですから、私を感じていることも北京で生活して感じることとしかいえません。上海に行けば、広州に行けばまた違ったことを感じるでしょう。日本の歴史背景だけで、中国は語れません。しかし、赤塚先生の講演を拝聴し、自分の国を本当の意味で慈しむことができる人間になりたいと思えました。

私には二つの祖国があります。日本と中国。今後はもっとそれぞれの国のことを知ろうと思

いました。

《愛知県40代 女性》

1. 「大丈夫だよ。大丈夫。」

今年は、二回目のみそぎでした。昨年のみそぎの反省会では、一回目より二回目の方が、様子がわかっている分厳しいと、どなたかが言われていたので、本当のところは、みそぎに参加することは怖かったです。しかし、思ったより楽に終わることができました。

実は、川に向かう時から、「大丈夫だよ。大丈夫。」という山元先生のお声が、耳の奥で、ずっと聞こえていました。それは、講演会が終わってから、山元先生と少しだけお話をさせていただいた時に、私に言うてくださった言葉です。もちろんみそぎの話題ではなかったのですが、水の中に入っても、たしかに水は冷たかったけれど、落ち着いて空を見上げる余裕(?)までありました。

2. 「やさしいことは、つよいこと」

ずっとお会いしたかった山元加津子先生の講演会!! 山元先生のお声を聴いただけで、涙があふれました。そして、「だいすきはうれしい」のことばの他に、山元先生が、最後のほうで一度だけ言われたこのことばが心に残りました。

私は昨年、同じ職場の先生から、『あなたの優し

さに子どもが甘えて、ダメになる。』と、言われたことがあります。大人が子どもに優しくしてはいけないの？子どもが大人に甘えてはいけないの？学校って厳しくて苦しいところでないといけないの？と、ずっと考えていました。覚悟を決めて、もともとと、『やさしく』なります。

3. 「祈ること」

昨年は、『信じて待つ』という学びをいただきました。今年は、『祈る』ということを学ばせていただきました。自分のためだけでなく、相手の人の幸せを願って祈ること。そして、自分のできることを一生懸命に行動すること。すると、たとえ結果が、自分の願ったとおりではなくても、相手の人にとっては『いいように』なる。そして宮ぶーさんのように『奇跡がおこる』こともある！

《大阪府50代 男性》

1. 皆さんをお迎えした五十鈴川・その陰に中山靖雄先生の祈り

今回は、ボンボリを持って川に入られた勇氣ある大谷先生の横で一緒に過ごさせていただき、皆様の姿を見守らせていただきました。選択科目と言いつつもながらも覚悟を決めた皆さんの姿は圧巻で、0度の気温を吹き飛ばす気迫を感じました。毎回、私

自身も初めての水行の時のことを思い出します。そこには、導いていただける修養団の先生方、これまで長い歴史の中で先人達が行って来られました歴史があつてこそ無事に「水行」をさせていただきましたいただけるのだと感じております。そして忘れてはいけないのは、毎回ご自宅が無事を祈っていただいている中山靖雄先生に見守っていただいている事です。三十五年間ボンボリを持って多くの方々に「心の光」を当て続けて来られたからこそ分かっていただけるところもあるのだと感じます。その時の環境、回数、人数ではなく、どのような立場や状況であつても、心豊かなれば感謝の念を持ち続ける事が出来ます。普段簡単には経験できないこと、生半可な気持ちでは成し得ない事を体験させていただける事でこそ、真に自分と向き合い、心が磨かれるのだということを感じていただいております。

2. 伊勢の風

毎回、修養団に「お帰りなさい」の言葉と共に迎えていただくことに心地よさを感じながらも、日常の中で自分がこういった気持ちで学生たちや家族と接しているかということに気付かされます。伊勢の地には「日本人の心」があり、伊勢の風を感じる事が私の心の養分になっております。伊勢の風とは、人とのつながり、人の心の温かさ、生き方の原点がそこにあると感じております。

す。今回は、中山靖雄先生はじめ、山元加津子先生、赤塚高仁先生、修養団の講師先生方が新たな伊勢の風、日本の風、日本人としての生き方を私達に運んで来ていただきました。朝の正式参拝の際の厳寒の中の玉砂利の音、参拝後の寺岡先生のお話では、その力強いひと言ひと言に日本人の心を感じました。夜の交流会では、地元の島京子様、斉田さんの奥様がわざわざ全員の甘酒をご用意いただき、修養団のお計らいで場所をご提供いただいただけでなく、寺岡先生は、夜中の三時過ぎまで我々に最後までお付き合いしていただきました。学ばせていただいている私たちは、伊勢の地に受け入れていただき、常に心ある方々に支えていただいているということなのです。

3. 太鼓

修養団の玄関での武田先生はじめ、講師の先生方のお迎え、最後のお見送りにすべてが集約されているように感じます。そんな中、最初の開講式が行われる大講堂の大広間の空間に何とも言えない空気を感ずります。そして歴史ある「太鼓」の音を腹で受け止める事で自分自身の細胞が動き出すのを感じます。単なる太鼓の音ではなく、そこにはこれまでの我々の知らない歴史が刻み込まれているような伝わり方があります。物事は、こういった捉え方が常に大切であるということを感じていただきましたし、私自身は、日頃こ

ういった太鼓の音のような気迫ある、それであつて柔らかい、響きのある言葉を学生達の心に投げかけているのかと問いかけるきっかけにもなりました。

《大阪府20代 男性》

1. 山元加津子先生のお話

「顔を選んで生まれてこなかったように、性格も選べない。」「いろんな子がいていい。頭ではわかっていてもできていないこと。」「優しい子とすぐカツとなる子は優しい子の方がいいと思っている自分がない。」

今の自分に言われているような気がしました。頭ではわかってはいるつもり、言葉では偉そうに語っているが、目の前にいる子どもにも色眼鏡をつけてしまっている自分に気づかせていただきました。いつになるかはわかりませんが、頭でも、心でも、身体でも山元先生のように受け入れられるようになったとき、子どもたちと調和できたといえるのだと思いました。

2. 赤塚高仁先生のお話

「魚に見えないものは何だと思う？ 鳥に見えないものは？」

魚には水が、鳥や人には空気が見えないと思う。

当り前で認識できない。見えないもの、あたり前なものに、本当に大事なものがある。日本人に見えないものは日本人。民族から歴史をとつたら動物以下。民族が歴史を失つたらその国は滅びる。歴史を知っている人が日本人。だからこそ、日本人として死にたい。

↓歴史、文化を教え提示していかななくてはならない自分が、日本人ではなかった。

中山先生をはじめ、修養団の方々に、日本のことを一つでも多く学びたいと思い毎年参加してきましたが、それだけだったことに気付きました。言いわけばかり探し、毎年、みそぎできつかけを頂いていながら、まったく自分で勉強をしようとしていませんでした。赤塚先生の話を聞いて、日本人でよかった、日本人になりたという思いでいっぱいになりました。また、こんなふうに深みのある、惹きつける授業を子どもたちに提示できる教員になりたいと思いました。

3. 中山靖雄先生のお話

「いいこと言って いいことして いいこと思って いい人になろう」

意識 ↓ 無意識

意識、無意識の教育

意識して行動、意識して思う、これを継続することで、意識の世界から無意識の世界へ持つていくということを気付かせていただきました。無

意識になったときに、自分自身となる。いい人となる。これができるようになったとき、無理のない教育、力や衝突ではない教育ができるようになるのかなと思いました。

いい場所、いい環境、いい人が、意識、無意識の教育を可能にするのだと思うことができました。子どもたちのために、日常を丁寧にごし、いいことを継続していきたくと思いました。

《大阪府20代 男性》

1. いつまでも生徒目線であること

山元加津子先生のお話が一番印象的でした。お話しというよりも先生自体に感動しました。「大好きはうれしい」というお話もとても感動しましたが、個人的には先生の姿勢自体がすごく印象に残っていて、先生自身のお言葉の中にもありましたが「生徒目線であること」「ありのままの自分で向き合うこと」「愛を持って接すること」。このことは私がこういう風に生徒と接したいと思ってきたことなのですが、数少ない教員の経験の中で、これだけではだめだ：：少し違うアプローチをしなくては・・・生徒目線だけでは甘いのか：：などの考えや、心の隙もあり、他人の目線に気を遣い、現場でスレて純粹な気持ちだめなのかと思っていました。そんな中で山元先生はそ

れによって自分を包み、周りを包み、ご自身を確立されたように思いました。改めて自分の本当の気持ちを見直し、生徒とどう接したいのかを初心にかえて純粋に行動しようと思えました。

2. 母国の歴史を知ることの大事さ

赤塚高仁先生のお話がこのことのピークと感じましたが、書ききれませんが講習会全体通して終始に渡って母国についてどれほど自分自身が知らないか、また知ることが大事なのかを感じさせていたように思います。

3. 自分自身の心の弱さ

無難に過ごすことが多くなっていくことが大人になっていくことなのかもしれないませんが、今回、極限状態に近いほど気持ちが追い詰められたことで自分の心と改めて向き合えました。ただ冷たい水に入るだけと言ってしまうは大したことではないのですが、初めてのことということや、雰囲気も含め、相当なプレッシャーがかかった時に今まで誤魔化してきた自分の心の弱さに出会いました。それを乗り越えたと思っっていますが、その自分の「弱い」部分も認めた上で乗り越えていける「強さ」を身につけて行きたいと感じました。そしてボンボリを持ってくださる方や写真を撮ってくださる方、様々な方に支えられていること、それが日々のことについても言えることも改めて感じました。週に五日も六日も朝晩も水行に

付き合っただけならいいのに言葉は失いました…

最後に、要所要所での大谷先生のお言葉は、人の心に大きな何かを感じさせる凝縮されたお言葉でとても励まされ、考えさせられ、反省させられ、とても感謝しております。ありがとうございます。

1. 反省行での気付き

《兵庫県20代 女性》

反省行では、自分が一生懸命に生きているか、という事を考えさせられました。私事で申し訳ないのですが、三年前に父親が亡くなりました。父が亡くなる前にこのようなお話をお聞きしていたら、親孝行できたかもしれないな…という後悔の気持ちがまず出てきました。でもお話を聞き、じつと考えるうちに、自分がするべきなのは後悔でなく、一生懸命生きて自分の役割を果たし、周りの人の命を大切にすることなんだという気持ちに変わってきました。自分の中で蓋をしていた気持ちの蓋がとれたように感じました。

あの場で改めて、命について感じる事ができたのは、反省行でのお話はもちろんです。一日目に修養団の先生方、山元加津子先生、参加されている方々から学ばせて頂けたからこそだと思います。

2. 「大好きはうれしい」

人は誰でも「大好きはうれしい」から始まるんだと教えて頂きました。生徒さん達に山元先生が愛を持って寄り添っておられた事が生徒さん達の力になったのだなと思いました。人は生まれてくる時性格を選べないというお話もありました。そしたら、そもそも「良い子」「良くない子」なんてものはないんだと感じました。分け隔てなく愛を持って接する事が第一なんだと教えて頂きました。

3. みそぎ（水行）

水に入った瞬間、息が出来ない事に驚きました。でもこの感覚が「生きてる」という実感なのかとも思い、初めての感覚に感動しました。皆さんの声とパワーのおかげで頑張る事ができました。また、水行が終わって、女性の着替えのスペースに行く時、そのスペースにはブルーシートがかかっているのですが、後から来る人が通りやすいようにシートを持っていて下さる方がいてくださいました。あんな寒い中でも後から来る人の事を考えて下さる事に学ばせて頂きました。終わった後に皆さんと一体感ができていて、この機会を作って頂いた事に感謝でした。

1. 修養団そのもの

今年で五回目になりました。私にとって、修養団はこころのふるさとです。講師の先生方のお人柄、大講堂とそこにある日本號や掛け軸、講師の先生のお話やプログラム。襖ぎは何回やつても冷たいですが、やはり私は修養団の大ファンです。また今年も、たくさんの元気をいただいて帰りました。この感動を学校で生徒に還元します。

2. 山元加津子先生のお話

先生の溢れんばかりの愛情に心を打たれました。ものすごい母性と、お茶目なところと、そして私たちの質問に対しても的確にアドバイスしていただけの分析力。子どもを愛する山元先生、山元先生を愛する子どものエピソードを聞かせていただき、あらためて、愛の溢れる、人間力の高い人になり、愛で想いを伝えられる人になりました。と思いました。

3. たくさんの意識の高い方々と一緒に参加させていただいたこと

一緒に参加させていただいた皆さんの、真面目さ、素直さ、明るさ、元気さ、暖かい心、に感激しました。想いを共有した者同士が何かを成し遂げることの楽しさや達成感に改めて気づかせていただきました。みんな凄いです。私もがんばります！

1. 「留学生」のお話

留学生が外国で日本の建国のことなどを聞かれ何も答えられなかったときに現地の人に「十八年も日本にいて日本のことを分かっているにわづか数ヶ月海外に来て何を学んだ。」という言葉をかけられた。というお話が非常に印象深かったです。

私自身も日本人の自覚や日本のことに対して、あまり深く考えたことはありませんでした。海外と日本での愛国心といえますか、母国への気持ち・認識が全然違うということと日本人の危うさについて気づかされました。パラオの国旗の話やイスラエルの方は日本を危険な国と認識している話も印象深く、共通して日本人は日本人としての誇りを失っていると感じました。早速授業でもこの話を生徒にさせていただきましたが、ほとんどの生徒が授業中よりも真剣な顔で話を聞いているのを見て、危なくなっているのは、「子ども」ではなく教育していない「大人」にあると感じました。職業の立場上、発言には気をつけなければならないとは思いますが、伝えなければならぬことは伝えようと、伝えられるように勉強しようという心から思いました。

2. 「生徒が生まれたときに顔を選べないように、性格も選べないんだ。」

私は教員になって二年目の年です。初の学級経営や生徒指導を経験させていただいているのですが、やはり、目立つ生徒は目立つなと思っていました。よい意味でも悪い意味でも目立つということはよいことだとは思っていましたが、いざ指導するに当たって、その生徒の問題行動をも包み込むような気持ちはあまり持っていませんでした。問題行動を正す。ルールがあるから、校則があるから守りなさい。という発想が先行していたため、その生徒がルールを守ることが難しい性格に生まれてきたのだろう。という考え方は非常に新しく、私自身の人間性を広げてくれる言葉のように感じ、体に染み渡っていききました。包容力や説得力の裏には必ず信頼があると思っています。その信頼を得るためにはその人をどれだけ理解してあげられるか、だと思っています。いろいろな話を聞き、これからも視野を広げていこうと思います。

3. 「すごい人は自分のことを言わない。」

まさにそのとおりだと感じました。と同時に自分のことが恥ずかしくなったお言葉でした。自身を振り返ると、何気ない一言の中に、自分はどういうことをした。自分はここまでした。など自分のやっていることを人に伝える場面が多いように感じました。誰かに褒めてもらおうとか認めてもらおうという気持ちで言っているわけ

はありませんが、よくよく考えるとそういった心理状況がはたらいっているのだらうと思います。自分でできること・やったことは多いほうがいいと思いますが、それを人に言う必要は自分が思っている以上に少ないのだと感じさせられました。本当に、お話し一つ一つが自分の未熟さに気づかせてくれ、日々成長できる喜びを与えていただける講習で、心より感謝いたします。また、この講習会での「学び」以外の、「出会い」というものが非常に好きです。これからも同志と出会い、自分を深め、生きることを喜べる自分みがきをしていきたいと思えます。ありがとうございました。

《広島県30代 男性》

1. 「大好きはうれしい」

山元加津子先生のお話で気づかされました。「大好きはうれしい」ということ。これは自分の心が決めるということ。相手を変えようとか、いうことは傲慢であるということ。自分の心が素直であること。

今の私は、自分と合わない生徒はダメな生徒であると思っています。なぜ分らないのかと思つてしまいます。生徒と同じ目線に立ち、自分から生徒を大好きになる努力をしなければいけないと気づかされました。中山先生も「出会いを通し

て自分と出会う」とおっしゃっています。「大好き」と思える自分になるため努力します。

2. 「知ること」

赤塚先生の話聞き、自分の日本人としての知識の少なさに反省させられてばかりでした。もつと自分の国のことを知る必要があると思えました。知らなければ行動することができません。もつと勉強しようと思えます。

私たちは祖先の遺産により生かされているという事に気づかされました。その祖先の皆様にご馳走よう立派に生きていきたいと思えました。

3. 「見守って下さっている」

伊勢に帰ってくるから「お帰らないで」で受け入れてくださる修養団の皆様。だから私たちは「ただいま」と帰ってくる事ができる。色々なところでたくさんの方々が見守ってくださいていることに感謝いたします。武田所長さんをはじめ、寺岡さん、保坂さん、斉田さん、中山靖雄先生、中山緑様、島京子様、斉田さんの奥様、たくさんの方々の祈りのおかげで今回の研修を無事に終えさせていただきました。

また、全国からお集まりの先生方からも元氣と勇気をいただきました。毎回お世話をしていただいております大谷先生。今回は水行でのボンボリ持ちを快く?! (金先生の強引) 引き受けてくださり、安心して水行を終えることができました。

ありがとうございました。宮崎先生にも毎年ボンボリを持っていただきまして感謝しております。その他、同室の先生をはじめ、ご縁をいただけた先生方のおかげで素晴らしい二日間を過ごすことができましたことにお礼を申し上げます。ありがとうございます。

《大阪府30代 男性》

1. 武田数宏先生のお話(いのちのまつり)

自分の体には、二分のお父さんの血、二分のお母さんの血と流れている。お父さん、お母さんもおじいちゃん、おばあちゃんの血が流れている。ということは、自分の体には、祖先の血が全部つながって流れているという話。最近子どもが生まれて、自分の子どもにも、自分だけではなく、嫁さんも含めてたくさん祖先の血が受け継がれているんだと思いがいっぱいになりました。

2. 山元加津子先生のお話

次元の違う、なんと言ったらいいか表現できませんが、大きな愛を持つての生徒への指導。都合のいいように解釈しているのは、自分で自分の中の尺度で物事の判断している。子どもは、両親も選べないように、性格も選べない。自分がやろうとしていないくてもやってしまう…。ついつい自分もいい子は良いと、悪い子には、悪いという

先入観で見えていた、接していたと思うところがあ
ります。ハツという思いでした。

3. 赤塚高仁先生のお話

イスラエルの話・パオの話・建国記念日の話
に心打たれました。日本が危ない国。見方が変わ
ればそうも見える。確かにそうだと思います。知
日本という国をもっと知らなければいけない、知
ればいろんな見方ができる。自分の生まれた国日
本に誇りを持つためにも必要なことだと感じま
した。

《大阪府20代 男性》

1. 修養団の皆さまの振る舞い

武田敦宏先生がはじめに参加者全員の名前を
何も見ずに呼んで下さいました。たった二日間だ
けであるにも関わらず、また、日々いろいろな
方々が講習会に参加されているにも関わらず全
員の名前を呼んで下さったことにとっても感動を
覚えました。また、そのことに先生の覚悟や思い
を感じる事ができました。今までは生徒の名前
を覚えるのも授業が始まってから少しずつとい
いかなあという思いでしたが、その時点で生
徒と向き合う覚悟が全く足りていないことに気
づかせて頂きました。

また修養団の先生方も一緒にみそぎに参加し

て下さりました。入るところまで案内することも
可能だと思えますが、自らも一緒に参加して下さ
る姿に感動を覚えました。生徒に努力をさせるこ
とも大切だと思えますが、自らも生徒と一緒に努
力していきたいと思いました。

寺岡賢先生がここでのことは私たちの役割で
すから、自分たちがしていることは大したこと
はありませんというようなことを仰って下さい
ました。私は教師という役目を頂いているわけ
です。同じように役目をしっかり果たしてい
きたいと思いました。

2. みそぎ(水行) 体験および反省行

大谷先生がみそぎは選択科目ですと仰られて
いたにもかかわらず、自分の中ではみそぎは大き
な位置を占めていました。みそぎを自分が行うこ
とを今までは想像できませんでした。尊敬する
先生方が行っているということを知り自分も行
ってみたいと思ひ参加させて頂きました。また、
みそぎを行うことで自分の弱い心に向き合いた
いと思ひました。条件が厳しくなればなるほど自
分の弱い心がより現れてきますので条件が厳し
くなるのは辛いです。有難いとも思っています。
水に浸かった瞬間は、ハードルを上げていた
こともあって意外と大丈夫かと思つたのです
が、それも一瞬で後はただただ一生懸命でした。
反省行で皆でロウソクを灯したことも大変印象

に残りました。一つ一つの蠟燭の明かりは小さい
ですがそれが合わさると部屋がかなりの明るさ
になりました。人間も蠟燭もよく似ていると思
いました。

3. 体験発表

体験発表もとても心に残り、私にとってはま
さに耳注のように思えました。同じことをしたり、
聴いたりしていてもいろいろな感じ方、とらえ方
があるのだと改めて気づくことができました。ま
た、▼「山元加津子先生に自分一人のときにどう
すればよいかと尋ねたら続けることですと答え
て頂いた」▼「ぼんぼりは信頼がないと持てない
が、生徒にとつては自分がぼんぼり、逃げてい
暇はない」▼「日々の暮らしの中でいろんなこと
を忘れていたり、抜けていたりするのがここ
では呼び戻すことができる」▼「しんどいときは
しんどい、うれしいときはうれしいといつてもよ
い」▼「山元加津子先生になんで愛に溢れている
のですかと質問したら、宇宙が愛に溢れている
からよと答えて頂いた」▼「山元加津子先生には
何の計算もなく、子どもであっても何であつても
全く何でもない」▼「震災を経験した人の本当の
核心の部分は計り知れない」▼「みそぎの後、寺
岡賢先生がダッシュをされていた、やった気にさ
せてもらっている」と言つた言葉が印象に残りま
した。発表は夜遅くまで続きましたが次の日には

運転される方もおられ頭の下がる思いがしました。

《兵庫県30代 女性》

1. 「やさしい子をいい子と思い、友だちにすぐに手を出してしまう子をよくないと感じる心があった…」

山元加津子先生のご講演というお話です。『性格は、生まれたときから決まっている。そのため、やさしい子は、努力をしなくてもそこにじつとじていられるけれど、すぐに手を出してしまう子は、他の子よりも努力をして、自分の前にいる。そう思ったら、みんななんて愛しいんだろうと思うようになった。』このお言葉に、目の前がぱっと開けた気がしました。

たぶん、ここでこのお話を聴かなかったら、私は今でも子どもに対して、勝手に苦手意識を持って、「これはダメ、あれはダメ」や「どうしてできないの」「みんなができているんだから」などと子どもを知らずに傷つける言葉を使っていたことと思います。みんな自分のままでがんばっているのだから、私はみんなそのまま愛したいと思いました。自分が教師として、人として生きるための、重要な部分を変えていただきました。

2. 「わたしはご先祖様でつくられている」

開校式での武田所長のいのお話です。『あなたがうれしいと、ご先祖様もうれしい。あなたががんばれば、ご先祖様はみんな「がんばれー」と見守って応援してくれる。』

わたしは亡くなった祖母を尊敬していて、大好きでした。でも、働きの聡明だった祖母とは違い、自分は怠け者でダメなところがたくさんあります。だから、どうしても祖母に似なかったらどうとずっと思っていました。武田所長のお話を聞いて、自分の体をご先祖様につくったこと、私のお話の中にはちゃんと祖母がいて、私のことを応援してくれているのだと思えました。それが本当に嬉しくて、がんばらなくてはと勇気もらいました。

3. 二日間でお世話になった全ての方々のお姿

私がこの二日間たくさんのお話を学ぶことができたのも山元加津子先生、赤塚高仁先生、中山靖雄先生、修養団の皆様、大谷先生やご参加された皆様のおかげです。すべてのことを準備していただき、指示していただき、自分はその中で言われるままに動いていただけです。2日間が楽しかったのは、皆様が笑顔で、規律の中に明るさがある空気を作られていたからです。あのような空気を学校でつくれる教師になりたいと思いました。

《長崎県40代 男性》

1. 「大好きはうれしい」

山元加津子先生のお話の中に出てきた言葉です。嫌いなキュウリを加津子先生のために飲み込んでしまう生徒の話。それだけ生徒に信頼されている山元先生。そのためには山元先生も子どもたちと同じ目線で心の交流をされたのだということが想像できました。また、大谷先生からお聞きした話、舎弟をどつくヤクザに抱きついて涙させたという話もよかったです。

2. みそぎ（水行）クリア

教師塾に通っている頃からとても気になって、行きたかった禊ぎ。仕事の都合や予算的なこと、家庭の事情などでなかなか心の整理が着かなかつたりしてこれまで参加することができなかつたのですが、今回、参加できました。とても冷たかつたのですが、あつという間に終わったという感じでした。寒さを感じると寒くないと心で言い聞かせたり、体を拭くときは濡れているのか分からなかつたり、と初めての体験でした。終わってセンターに向かうときに体が内部から暖かくなってきたのと、寒はずなのに吐く息が白くなつたのが不思議でした。実は年齢的にも体力的にも最初で最後かもしれないと思い、参加させていたのですが、私よりも年輩の方々も参加されていました。自分の甘さを実感しました。

3. 神宮正式参拝（御垣内参拝）

正式参拝では伊勢神宮の大きさ、神秘的なところ、古くから今に至る建築物や木々などを目の当たりにし、さらに日本の神話についてお話をいただき、改めて自分の認識不足を知らされました。日本人として知っておかなければいけない事だなあと思いました。天皇や神道など斜に構えてしまふところがあり、考えさせられました。

《大阪府50代 女性》

1. 「川に入らないことも勇気の要ることだ」

中山先生がおっしゃってくださったこと。私にとつては本当にそうだったので。みんなと入る方が楽だったのです。そして体験発表も途中で寝ました。今までの私だったらやりたいことをすべてやっていました。川に入つて、体験発表も最後まで聞いて……しかし、自分の体調をしっかりと管理することは自分の生徒のためにつながる。だからやりたいことを抑えて自分でコントロールできたことが今回は一番嬉しかったのです。

2. 山元加津子先生の宮ぶーに対する献身的な看護

あくまでも回復を信じ、ずっと声をかけ続けて、宮ぶーが回復している事実。そして家に帰つてべ

ッドから車椅子に乗せる方法をやったら本当に簡単に相手も楽に移動できた。いろんな意味で山元先生のから教えていただくことは世界を変えらると思う。そして病気になる前に健康な間に両親に思いっきり喜んでもらおうと決意させていたのだ。

3. 寺岡賢先生の伊勢神宮の中でのお話

何かが乗り移つたかのように神々の世界を、伝えてくださり、涙が出た。日本人としての誇りをよみがえらせてくださった。

《兵庫県40代 男性》

1. 「おかえりなさい」のお出迎え

子どもの頃、家に帰ると、どこにいても聞こえるような大声で「ただいま」と言っていました。「おかえり」の声を聞くと「母さんがいる」と安心し、疲れも吹っ飛び、いやなこと忘れ、元気になれました。修養団に到着して「おかえりなさい」その声を聞き思い出した感情です。

この年になつても帰宅すると「ただいま」と大声で言っています。妻や子どもたちの元気な顔を見て、安心しています。

子どもたちも大声で「ただいま」と言っています。妻は明るい声で「おかえり」を返しています。その声からは、無事に帰つてきてくれてよかった

と安心している様子がうかがえます。お互いの愛情を確認し合う言葉のキャッチボールが「ただいま」「おかえり」だったと気づかせていただきました。

帰る場所があり、迎えてくれる人がいて、帰ってくる人と交し合う言葉「ただいま」「おかえり」の有り難さに感謝いたします。

2. 義母へ心よせて

山元加津子先生のお話を聞いているだけでその状況がグイグイと入ってきました。溢れんばかりの愛情とソフトなお人柄、母性に魅了され、こんな慈悲深い人がいるのだと何度も目頭が熱くなり涙が出てきました。

誰もが諦めていたことでも、きつとよくなると祈つて接していれば、その思いが相手に伝わり、奇跡が起こる。宮ぶーの話を聞き二年前、くも膜下出血で亡くなった妻の母のことを子どもたちと一緒に思い出していました。

「あなたがうれしいと私もうれし」「あなたが悲しいとわたしも悲しい」本当にそうです。相手に心をよせることが大切と頭でわかっていても、自分の都合を優先し、嫌なこと、苦手な相手から目を避けて努力しない時がしばしばあります。人を愛しいと思えるようになるには、まず私が苦手に向き合う努力をしなければと気づきをいただきました。

3. わが子と参加できたしあわせ

中学三年生の娘、小学五年生の息子を受け容れてくださりありがとうございます。共に参加させていただけましたこと、心から感謝申し上げます。また、期間中は、笑顔で接してくださいました先生方のお陰をもちまして二日間、親子仲良く学ばせて頂く事ができました。

お茶を入れる息子、次の準備をしている娘を見て成長を感じました。家では、見られない姿を見て言葉にならない喜びをいただきました。

「長時間、同じ姿勢で話を聞くのがつらかった」「朝の伊勢神宮参拝は寒かった」自宅に戻って真っ先に言った子どもたちの感想です。相当、我慢させていたんだと反省しました。今、二人とも母親に優しく接しています。

お世話になりました講師の先生方、修養団の皆様、島さん、斉田さん、参加者の皆様、応援ファックスをくださった千原さん、有吉さん本当にありがとうございました。

《兵庫県 中学三年生 女子》

1. 伊勢神宮参拝

はじめて伊勢神宮に行きました。思っていたより広かったです。参拝するのも作法があることを知りました。とても良い経験になりました。

2. 童心行

先生方が必死になっていたのを見て迫力がありました。あのようになれるのがすごいと思った。私は恥ずかしかったです。これからは、恥ずかしがらずに何事にも取り組もうと思いました。

3. 山元加津子先生のお話

宮ぶーさんの話でお医者さんが意識が戻らない、植物人間と言ったけど山元先生は大丈夫、大丈夫と言って祈り、声をかけ続けたので、祈りが宮ぶーさんに届き奇跡が起こり意識が戻った。祈り続けると無理なこともできるようになるかもしれないから私は、無理なこともあきらめないでいこうと思いました。

《兵庫県 小学五年生 男子》

1. 伊勢神宮のすごさ

前、テレビで伊勢神宮をみました。テレビでそこは、全部の神様がいるところと言っていました。おとうさんが、「みそぎいくで」と言いました。どこに行くかはわからないまま行きました。するとそこは、テレビで見た神社でした。大きな木がたくさんありました。驚いた。もつと驚いたのは、日本の神様がいると知ったことです。そこは、とっても寒かったです。また参加したいです。

2. 自己紹介ゲーム

おとなが子どもみたいに焦っているのを見て面白かった。特にじゃんけんゲームで焦っている姿が面白かった。先生たちが友達のように感じた。こんな先生たちが僕の学校にきたらいいなあと思いました。

3. みんなでやった掃除

ひとりでは、あんな大きい施設の掃除はできないけど、先生たちがいっぱいいたのですぐ終わった。ひとりでやると大変と思った。みんなで協力するとひとりではできないこともできるようになると知った。もしひとりだったらやっていないと思いました。みんながいたからできました。

《兵庫県20代 女性》

1. 「大好きはうれしい」

山元加津子先生のご講演でのお言葉です。宮ぶーのお話では、大好きという気持ちから、ひたすら祈りつづけ、奇跡的な回復をされたことに深く感動しました。人の想いの偉大さに驚きました。理屈や科学的なことも超えてしまう、人の想いの偉大さに驚きました。「大好き」を増やしていきたい。山元先生のように愛にあふれる人になりたいと思いました。受け入れ難いことに対しても、少し見方を変えて、好きになる工夫をしていこうと思

います。

2. 「いいこと言って、いいことして、いいこと思って、いい人になろう」

中山靖雄先生のご講演でのお言葉です。有難いご縁をいただいた素晴らしい方々をお手本として、言葉や行動、考え方を少しづつ真似ることから始め、人として成長していきたいと思えます。

3. みそぎ（水行）

みそぎを通して五感を研いでいただいたように思えます。五十鈴川のなかでは、両親が心に浮かび、身体の内側から、温かいものが込み上げてくるのを感じました。川へ向かうときの緊迫感も特別なものでした。水に入らなくても、日々のなかで感性を磨いていくことが大切だと思いました。毎朝目が覚めたとき、川へ向かうときと同じ覚悟をもって、一日を丁寧生きるよう心がけて参ります。

1. 山元加津子先生のお話

《大阪府30代 男性》

「みんなちがってみんないい」と頭では思いながらも行動はぜんぜん違っている自分と、子どもの本当の、その子らしさを自然に出せるようにしている加津子先生。大きな愛。自分はまだまだまだです。

2. 開会式で武田数宏先生が名前を呼んでくださったこと

「花の微笑み、根の祈り」僕たちが伊勢に行く、何日も前から武田先生が祈ってくれていたんだということ。会う前からもうすでに会っている。人を大切にしているってどういうことを教えていただきました。

3. みそぎの前に並んでいたサンダル

私用があつて先に帰る際、講堂一階にはすでにサンダルが並んでいました。全てが楽しくできるのは修養団の先生方、スタッフの方、そして大谷先生の縁の下での動きがあつてのことです。「光らせる人が一番光っている人」まさにその通りだと感じました。

《大阪府20代 男性》

1. 「職員室ではいい話をたくさんしてください。」

私が保護者の方の言われることを受け入れられずにいました。保護者は子どものことや学校体制について考えておられ、相談をしてくれるのに、それなのに、保護者のせいにして、学校体制や同僚のせいにして逃げてばかりの自分がいました。うまくいかないことをぼやく自分、結局歩み寄ろうとしていないのは自分自身でした。でも、

なんとか保護者の方とつながりたい、学校がいいところだって安心してもらいたい自分もいました。

そうやって悩んでいることを山元加津子先生に相談、質問を投げかけさせてもらいました。普段の私の行動を見ておられるかのごとく、迷わず「職員室で保護者の素敵なところをたくさん話してください。学級でも学級通信などでよかったところなど載せて発信してください。」と、言って頂きました。私としては凶星であったことと、そんな当たり前のことで解決させてもらえるのかなと思いました。でも、山元先生の言われるのは自分が思う以上に愛をもって接しなさいというメッセージつきだったということが、この感想を書かせて頂いている時に気づかせて頂きました。

2. 「スリッパを人の分も揃える八尾監督」
クツは足で揃えて 手で揃えて 心で揃える

みがく講習会に参加して講師の保坂さんから一番初めに教えて頂いたこと。クツを揃える。「クツは 足で揃えて 手で揃えて 心で揃える」大講堂に入る前に学ばれていただきました。そこで、先頭から順にスリッパを並べていきました。私の前にいるのはトライアスロンチーム監督の八尾さんでした。八尾さんは前の人のスリッパに

綺麗に揃えているだけではなかったです。自分のスリッパの片方と隣の人のスリッパに手を添えて心を添えて膝をつき揃えておられました。これは講師の先生に言われたからできるのではなく、普段からされていることがわかりました。普段の生活が厳しい場面にでると、石巻の避難所でありダーの浅野さんが言われていたことを思い出しました。やはり、普段いかに全力で生きているかです。気づかせて頂きました。ありがとうございました。

3. 「講演会中ずっと手話をされる山本芳弘先生」

山元加津子先生の講演会中ずっと手話をされる山本先生の姿をみて感動しました。手話をされる方というのは三十分毎くらいで交代できるようにしているのが自分の中の当たり前でした。山本先生は二時間くらいの講演会中ずっととされています。手話をされる方がいて講演会を聴ける方がある。障害のある方がいるから手話という愛あるものが生まれました。お互いになくはならないものですね。手話をされる姿を拝見して感動を頂きました。普段されていることなんです、それが素晴らしいことなんです。やはり、何事も普段されていることの素晴らしさを感じさせて頂きました。気づかせていただき、これからの生活に生かしていきたいです。

《和歌山県30代 女性》

1. 山元加津子先生ご自身そのもの

まるで、マザーテレサの様な、深い深い愛で、その場を温かくてフワフワのオーラで包み込んでしまう庄巻のオーラにただ、ただ、ただ涙が出て止まりませんでした。

「生まれつきの性格は選べない」というかつこちやんのお言葉で、人を許す、自分を許すという事はこんなにも温かい気持ちになるのだと、感動しました。

私は、自己表現が下手です。時に本心を素直に言えない、強がってしまう、無理をしてしまう。かつこちやんの様に、生徒の前でも、誰の前でも泣いたり笑ったり自分を素直に表現できる素敵な人になりたいです。

2. 中山靖雄先生にお会いできたこと、名前を呼んで頂いたこと

「初めてお目にかかります。」と挨拶させて頂いたところ、出身県と名前を呼んでくださり、温かく握手をしてくださいました。驚きの気持ちと共に、中山先生の人を想う愛に、また感動しました。かつこちやんの公演後で涙腺がゆるんでいたところのダブルパンチで更に涙が止まらなくなりました。閉会式の際に、にやかな奥様のお隣で、中山先生がお祈りをされていたお姿が目には焼き付いています。

3. 伊勢神宮で光の虹を見たこと

内容のぎっしりと詰まった日程もクライマックスの朝、伊勢神宮へ正式参拝させて頂きました。その帰りにふと、木々の隙間から朝日が差し込んでおり、その光は丸い虹の形となり目の前に現れました。この二日間の総括として、この伊勢に來させて頂いたことは「マル」正しかったのだという確信を持ちました。良い一年のスタートとなりそうです。また、何よりも、その光の虹をその場にいた方々と一緒に分かち合えたことも大きな喜びでした。

《三重県30代 男性》

1. 山本芳弘先生の手話から感じられる奥様の愛情

山本芳弘先生は、講習会のスタートから、ずっと奥様と、ご友人に手話で講演内容を伝えておられました。笑顔で合図を送り、目で確認し、口で伝え、手で伝え、体全体で伝え、心で伝えているように見えました。手話を長時間続けるということは、とてもたいへんなことですが、ずっと続けておられました。

私は、山本芳弘先生の手話自体もすばらしい、すてきだと思いましたが、奥さんや、ご友人に対する想い、愛情にとっても感動しました。私は、こ

こ最近あれほど妻のこを見つめたことがあつただろうか。微笑みかけたことがあつただろうか。娘二人を、見つめ見守っていただろうか。同様に、クラスの子どもたちをやさしく暖かい眼差しで見つめていただろうか。心で話を聞こうとしていただろうか。いそがしさを言い訳にし、コミュニケーションが雑になってはいなかったか。どんなに、いいこととして、いいこと言っても、自分の一番近くにいる人を大切にできていなかったら意味がないと感じました。私に一番足りなかったことを山本芳弘先生は教えてくださったように思います。

2. 修養団の研修プログラム

講習会は何度受講しても、学びがあります。そして、また受講したいという気持ちになります。たつた二日のプログラムで現在、過去、未来が整理され、明日に希望をもつてさわやかな気分になることができます。その講習を毎回最高の精度で提供してくださる講師先生方のすごさ、すばらしさは想像を絶します。

3. 慣れからくる心の緩み

今回七回目の水行でした。水行に対する不安はこのところ感じなくなっていました。それと同時に、水行をさせていただけのことへの感謝も小さくなっていました。完全に心が緩んでいました。そして、どうなったかという、水行直前に急に

焦りだしました。心を乱したままで水行を始めてしまいました。慣れにより、緊張が小さくなることは良いと思いますが、あたりまえになり感謝の気持ちまで小さくしてしまうと、最善のものは得られないということを感じさせていただきました。

《三重県40代 女性》

1. 赤塚高仁先生のお話

パラオの話聞かせて頂き、涙が止まりませんでした。日本に誇りを感じました。もっと沢山の人が知って欲しいと思います。そして、日本の良いところもそうでないところもたくさん知りたいたと思います。そして、日本人になりたいと思います。

2. 山元加津子先生のお話

私は小さい頃からよく泣く子でした。泣くこと以外にも自分が嫌いで認められなくて好きになれなかったのですが、かつこちゃんのお話で「誰かが痛い泣いてしまう子でした」「そのことが嫌でした」「でも……」を聞いて少し自分が好きになれました。自分の問題は子供に出てきます。何故か帰ってすぐに「お母さんは自分のことが好き？」と聞かれました。おかげ様ですんなりと「好きよ」言うことが出来ました。今までも聞いて

きたことはありませんでしたが、今回は子供がすっきりした顔で「そうなんや！」と言ってくれていました。とても嬉しかったです。本当に良かったです。

3. 同じ想い

今回初めて襖をさせて頂きましたが、皆に逢うまではとても不安でした。が、本番に近づくにつれ不安は無くなり 着替える頃には全然平気でした。川に入ってみると冷たいけど、冷たくない？ なんてなのかな？と変な感じでした。帰ってきて思ったのは修養団の先生方、行灯を持って頂いた大谷先生・宮崎先生、そして皆がいてくれたから出来たのだろうと思いました。二日目の正式参拝、国歌斉唱 共にとても気持ちが良くてこの気持ち良さは同じ想いの人が集うから経験させてもらえたのではないかと思います。関わって頂いた方々に感謝です。

《大阪府30代 男性》

1. 赤塚高仁先生や寺岡賢先生のお話の中にもありました、多くの日本人が自分達の歴史を知らないということ

グローバル化が進み、海外留学が当たり前の世の中において、自分達の国の成り立ちやどのようにつながれてきて今の自分があるのかを知らぬのに、なぜ他の国の事を知ろうとしているのか。

どのように比較するのか。アメリカの教科書に載っている日本の教科書に載っていない。戦後の教育の影響によって私自身も含めて全く知らされずに育ってきてしまったことが今や当たり前になつている現状に、恥ずかしい思いになりました。

君が代や国旗についてもそうです（ここから先は、あくまで私が感じる個人的な意見です）。学校の中でいつも論議されるのが「入学式」や「卒業式」です。静粛な場、門出の場であるのに、反対の垂れ幕を流しては異議を唱える場面を見ては、小さい頃から違和感を感じてきました。今現在も現場においても国歌斉唱の時に起立しない教員がいることや生徒も巻き込んで起立させなかったりする場面を見ては非常に残念な思いで過ごしてきました。私自身は、ずっとスポーツをやってきたからなのか、自分の国に誇りを持ち、自分の国の歌を自然と歌えています。色々な考えを持っているのも当然であると思うのですが、何よりもそんな姿を生徒は見てどのように感じるかが不安になります。生徒は敏感です。大人がそのような姿勢を見せることで生徒が大人になつた時にどのように自分の子どもに説明するのでしょうか。法律で決めないといけない現状に本当に残念な気持ちになります。生徒達には自分の生まれ育つた国の歌・旗に素直に誇りをもってほしいと感じています。どのような経緯でこのよう

になつたか私自身からないことが多い中で、偉そうに感想を述べさせていただいて恥ずかしい思いでいっぱいなのですが、今回のお話を聞かせていただき、日本人の謙虚で思いやりのある心を再認識させていただくことで、私自身、涙が出る思いでいましたので感想を述べさせていただきます。

2. 山元加津子先生のお話

自分自身も三年間程でしたが、知的障がいのある生徒を担当していました。自閉症の生徒も多く、パニックになる場面もたくさん見てきました。好き嫌いある生徒にも無理やり食べさせていたり、今思えば、自分の価値観だけを押し付けて指導していただけかもしれないということを山元先生のお話を聞いて、振り返っていました。ありがとうございました。

3. みそぎ（水行）の後の反省会

今年は、始めての方が多く、昨年から参加させていた私にとつても、とても新鮮な気持ちで話を聞かせていただきました。回数の問題ではなく何を感じるかどうか。一人ひとりの方の感じ方や経験が違うように、生徒たちも一人ひとり違うんだということも理解していかないといけないと感じました。全ての生徒には輝く要素があるように、私たち教員も自分を律し、襟を正す思いで励んでいかないといいなと思いました。

《大阪府40代 女性》
1. 修養団に到着した際「お帰りなさい」と迎えていただいたこと。

非常に嬉しかったです（初回は意味がわかりませんでした）。一年間無事に生きてこれ、また帰って来ることができたとありがたい気持ちになりました。

2. 「星がきれいですよ」

襖ぎの際、川から上がる時に寺岡さんが声をかけてくださったこと。美しい自然に見守られてること、振り返った時、まだボンボリを持って最後まで見守ってくださった修養団の方、先生方がいらっしゃることに気付け感謝の気持ちを持つことができました。

3. 一年前から準備をしてくださっていたこと。

大谷先生はじめ、修養団の方々ほか多くのみなさんが私達を迎える準備をしてくだつたおかげで、様々な体験ができ、感動できる講習会となつたこと。

1. みそぎ（水行）のボンボリ

みそぎの時、我々より先にほんぼりを持って入水された大谷先生と宮崎先生に感銘を受けまし

《大阪府30代 男性》

た。しかも私たちが上がってからもまだ水に入っておられたので驚きました。

2. 寺岡賢先生のお話

伊勢神宮での寺岡先生のお話です。なかでも日本人として誇るべき英雄の東郷平八郎の存在を教えていただけたことは新しい自分に変わるきっかけをいただいたような気がします。日本の歴史に興味を引くひとときでした。

3. 赤塚高仁先生のお話

赤塚先生のお話も日本人として自分の意識を変えの一瞬でありました。もつと日本のことを知らなければいけない。子を持つ親としてまだまだ知らないことが多すぎると情けなく思えた時間でした。最後の日の丸を前にしての国家斉唱は自然と涙がこぼれ、号泣しました。

1. 人間性

《滋賀県20代 男性》

この講習に参加している人の人間性に感動した。ひとつもマイナスな言葉が出てこない。笑顔で挨拶し、気持ちのよいコミュニケーションができる。全てポジティブにとらえ行動する。現代人が忘れてきている心だと感じた。

2. みそぎ（水行）

あれだれみんな嫌だ嫌だと言っている、みんな

な参加し達成感を味わっていた。人間に出来ないことなんてないのだなと思った。できる、できないではなく、やるかやらないかだなと感じた。

3. 寺岡賢先生のお話

スペインに留学するといっている自分にとって、とても刺激のあるお話だった。日本人は何も日本の事を知らないなと感じた。なにも知らないのに、海外に新しいことを求めても意味がない。今一度、日本、自分自身の事を振り返らなければならぬと感じた。

1. 修養団

《滋賀県20代 男性》

いつも、帰ってくると「おかえりなさい」と暖かく迎えてくれる修養団の先生方。心の故郷であり、日常から離れ、今一度、原点を見つめることができる場所と、修養団の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

2. みそぎ（水行）

今回で、二回目の水行の経験でした。昨年は、寒いことしか記憶にありませんでしたが、今回、様々な人たちに支えられ今日ここにいることを再認識し、日頃の感謝を痛感できた、素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

3. 童心行

たくさんの先生が、全国から集まられ、そして、いつもながら童心行で、ありのままの自分を出すことができるこの時間。先生達が一つになり、みそぎやセミナーを受講する際になくはならない、童心行と寺岡さんのパワーに感動しました。

1. 山元加津子先生のお話

《兵庫県40代 女性》

愛にあふれておられる先生のオーラに圧倒されました。自分基準で生徒たちと向き合うのではなく、生徒たちそのものを受け入れるおらかさが必要だと感じました。どうしても、生徒のせいにして、責めている自分自身の度量の小ささを思い知らされました。

2. 裏で支えてくださっている人たちへの感謝と集団力

みそぎで前を歩いていると、あらかじめ走って準備を整えてくださっている修養団の皆さんの様子がよく見えました。私たちは決めていただけなのに、乗っているだけなのに、思い、思い上がっている自分自身を反省し、支えていただいている方々への感謝を大切にしなければと感じました。

また、教師の自分自身を磨く会に参加されて

いる方々が、やる気にあふれ、また一人一人を温かく迎え入れる雰囲気居心地の良さを感じ、このようなクラス経営をすれば生徒たちも生き生きとするのでは、と思いました。

3. みそぎ（水行）

選択科目となつてはいましたが、この雰囲気では参加しようと思つてしまいました。静寂な雰囲気の中で、普段感じることのない、自分の命と自然との関係を五十鈴川で厳粛に感じることができました。たくさんの方々のつながりを大切にしていきたいと思つています。ありがとうございます。

《愛媛県30代 男性》

1. 両親への感謝の気持ち

寒い川へ入る禊以上に、川に入るまでの反省行は、私にとつて貴重な時間となりました。あれほどまでに、両親について回想したことはありませんでした。物心ついた保育園のときに、崖から落ちたときの父親のとつた行動から始まり、小学校で上級生相手に喧嘩をして相手に大怪我をさせてしまい、夜な夜な一軒ずつ母親に連れられお詫びにいったこと、などなど。そして当たり前のように、大学院までいけたこと。こんなに両親の存在を振り返ったことはありませんでした。そして、

両親に対して“許す”という気持ちを持つようになりまし。さっそく、松山に帰り、今は別居している父親と母親それぞれに電話をしました。とりとめのない会話でしたが、電話の向こうでも私からの電話を不思議に思いつつも、何か感じ取ってくれたようでした。少しずつ受け入れていければと考えています。

2. 教師に対する思い

私の父親は小学校の教諭でした。学校では情熱をもった教諭として校長職までまっとうした方でした。しかし、家庭ではDVが激しく、決して誇れる父親ではありませんでした。その父親を見ていると、教師という職がにくたらしく、教師は詭弁者で偽善な職人たちだと子供のころから感じていました。中学、高校でも、自信の素行不良もあり、尊敬できる教師との出会いには恵まれませんでした。しかし自分が、望んでいないだけだったのかもしれない。今回こられている先生の多くは、真剣に自分のあり方を追求されていらつしやるように感じました。先生方の端々にみられる言動に、教師に対する私の思いが少しずつ柔らかくなったような気がします。

3. 寺岡賢先生のお話

神宮の特別参拝は、素晴らしい経験でした。御正宮の一般参拝する場所より内側で参拝できたことはもちろんですが、なによりそこから移動し

て、御稲御倉前で聞いた寺岡先生のお話は感慨深いものでした。また禊以上に寒いシチュエーションは、先生の話がより一層響いたものになったと感じています。私は中学校では担任の思想で、在日や被差別部落の考え方に対して、天皇制の存在が原因であると教えられてきました。今考えれば、ある種のプロバガンダ的な担任教師の言葉に、背伸びをしたがる若者にとつてはシュールな行為に“あこがれ”をもつていたように感じています。そして、三種の神器が“磨く”ということに共通して、それが日本人に古来から自分を“磨く”ことに通じている、という旨の話には、とても感銘を受けました。私も、自分の目と耳と頭で神話を読み、建国と天皇について学び、人間を磨いていきたいと決意した次第です。さっそく山中先生の「日本の心を伝える伊勢の神宮」を購入し読みました。しかし奥が深いようです。これからが楽しみです。

《京都府30代 男性》

1. 「大好きは嬉しい」

山元加津子先生がおっしゃった、大好きは嬉しい！この言葉に胸が熱くなりました！当たり前で、すぐくすぐく大切なこと、何も知らないむかしは、きつとあたりまえのこと、色々な話から、

改めてみんな繋がっていることを、強く強く感じました！

そして、周りを、うれしいさせられる人になりました！

2. 暖かいひと

中山靖雄先生、山元加津子先生、武田数宏先生この会にいられている多くの魅力溢れる人に共通していたのがホッと心が癒されることです。

3. 感謝

この会で強く感じたのが、感謝の気持ちです！私たちのために、一緒に裸をしてくださった、修養団の皆さん、陣頭指揮をとってこの日まで、準備してくださった、大谷先生、宮崎先生、その他多くの人のおかげでこんな、素晴らしい体験ができていますその事に感謝し、その意味、その期待にこたえるべく、がんばります！いいことと思って、いいことといっていい人に近づきたいです！ありがとうございます！

《宮崎県20代 男性》

1. 寺岡賢先生が神宮でお話しされた海外旅行についてのお話。

自分の国のことを知らないくせに二週間程度で他の国のことを知ることはおかしいというお話でした。このお話はとても心に響くものがあり、

確かにお世話になって自分の国のことを全く知りませんでした。今回を期にもっと日本の歴史や人物について勉強しようと思いました。

2. みそぎ（水行）

五十鈴川で禪一枚で入る水行で自分の中では何が変わるのか正直理解できないと思っていました。しかし水行を終えて自分への甘えなど考えなければならぬことがあり自分を見つめ直し心を洗うことができました。

3. 熱い先生方との交流ができたこと。

将来中学の保健体育の教師を目指すにあたり熱い先生方との交流はとても貴重な時間で数多くのお話が聞けたことはこれからの必ず生きてくると思います

《大阪府20代 男性》

1. 山元加津子先生のお話

ほんとに考えさせられるお話でした。自分も支援学校で仕事をさせてもらっていて、日々生徒と向かい合う中で、山元先生ほどの愛情をもって生徒と接していったら、もつともつと生徒の可能性も広がり、自立やノーマライゼーションが理論としてだけじゃなく実際になるだろうなと感じ、自分自信を見直すきっかけにもなりました。ありがとうございます。

2. 赤塚高仁先生のお話

日本人について考えさせられる熱いお話だと感じました。日本に生まれ育ちながら、自分の国の歴史や文化をほとんど知らず恥ずかしい思いにもなりました。日本の事をもっと知りたいと思い、早速本も購入しました。日本は大好きで日本人として誇りももっているつもりでしたが、何も知らずに日本人や日本のことは語れませんでしたね。これからもっと日本について勉強し、ほんとの誇りがもてるようになりたいと思いました。その上で海外やいろんな文化にも触れ、いろんな素晴らしいものを見て感じてみたいと思いました。そして、日本の素晴らしさをこれから語り継いでいきたいと思えます。ほんとうにありがとうございます！

3. 修養団の皆さんや参加された方々とお話させていただいたこと

昨年、日本が大変な震災にあい、ほんとに心を痛めたけど、どこか人事のように思っていたところも正直ありました。今回、磨く会に参加させていただき、自分磨きもそうですが、修養団の皆さんや参加された方々とお話させていただき、皆さんが真剣に日本の事を思い、熱くなる姿を見て感じてほんとに今回参加させていただいてよかったな、自分も頑張らないといけないなと胸を熱くすることができました。ありがとうございます！

《大阪府20代 女性》

1. 山元加津子先生にお会いできたこと

山元先生がお話し出した途端、言葉に言い表せない、溢れるほどの愛を感じました。山元先生は、すべてのことが完璧にできるのではなく、ちよつと抜けているところもあるけれども、そのかわりに、あの方にしかない、究極の深い深い愛があるということがわかりました。私は先生になるには何もかもが完璧にできないといけない、という思い込みがありました。しかし、先生になるには、すべて完璧にできることが求められているのではないということに気が付かされました。そして、「私には愛がありません。あなたには何がありますか。」と山元先生に問われているような気もしました。

2. 中山靖雄先生にお会いできたこと

中山先生もお話し出した瞬間、何か人を引き付ける魅力がありました。もつとお話しを聞きたいと思いましたが、あんな先生になりたいなと思いました。

3. みそぎ（水行）をしたこと

今思い返しますと、自分でも、よくあんなことしたなと思います。人生の中で確実に一生語り継げる出来事のひとつにノミネートしました。初体験の中で感じたことは、当たり前前に感謝ということでした。自分が当たり前前と思っている世界と全

くかけ離れた世界に身を置くと、今まで当たり前と思っていたことが急に鮮明に見えてきて、どんなにありがたい日常を送らせていただいているのかをまじまじと感じました。暖かい部屋、温かいご飯、あたたかい人たち…私が普段どんなにいたたかい環境で生活させていただいているのかわかりました。また、極限の状況で出てきた私は、私のことしか考えてない私でした。もつと修行が必要だと思いました。

《大阪府20代 男性》

1. きれいに並べられた座布団

山元加津子先生のお話しを聴かせて頂く前に、大講堂へ入りましたら、そこにはすでにきれいに座布団が並べられてありました。それを見たときに、「あ、自分はまた受け身になっている」と感じました。講話の前に座布団を並べて下さった方（おそらく寺岡先生、保坂先生）の心遣いの深さを知りました。私は山元加津子先生のお話しを聴かせて頂き、何か学びたいと考えていたのですが、大谷先生が仰るように完全に「おめでたい人」になつておりました。その場を設定して下さった方いるということ。そして、話しを聴く私よりも何歩も前を読んで行動し、スムーズに進むように動いておられる方がいるということ。お話しを聴か

せて頂く前に、すでに背筋を正される思いが致しました。自分のことだけでなく、どんなときも先を読み、サツと動くことができるようにあらねばと感じました。ありがとうございます。

2. 「優しい子はいい子？カッなる子はよくない子？」

山元加津子先生のお話しのおかげで「優しい子はいい子？カッなる子はよくない子？」という内容がありました。私はそのお言葉が強く心に残っています。教師である自分が何か指示をして、その指示通りにいかないとき、イライラする。気づかないうちに子どもを責めている。それはまさに自分自身に問題があるのだということに気づきました。他でもない自分自身が、本当に子どものことをわかるうとしていないということ。そしてきつと自分をさらけ出していないのだということ。それがよくわかりました。加津子先生が子どもに接しておられる様子を聴かせて頂きながら、愛に溢れる様子に心を打たれました。私ごとですが、実は来年度から支援学校で勤務させて頂くことになりました。加津子先生のお話しを聴かせて頂いて、今の自分にだけのことができるかわかりませんが、私も全力の愛で子どもに接したいと思いました。

3. みそぎ（水行）

首まで浸かり手を合わせました。頭の中は何も

考えていませんでした。何かを考える余裕などありませんでした。しかし、命の灯が燃えているのを感じました。おそらくすぐく目を見開いていたのではないかと思えます。ただ、少し体がふらつきました。そこが自分の弱さです。来年は、体をふらつかせることなく、自分と向い合いたいと思います。

《千葉県40代 男性》

1. 赤塚高仁先生の日本の事をもっと知るべきだ！

とても良い話を聞かせていただきました。日本の良さを認識し、もっと知りたいと思いました。

2. 修養団での振る舞い

修養団でのみなさんの振る舞いがとても素晴らしい。清々しい気持ちにさせていただきました。自分の家から始めたいと思います。

3. みそぎ（水行）

あの雰囲気はなんとも言えませんでした。あの中で、自分は、氣をためるといことが少しわかったように感じました。とても良い経験をしました。

《兵庫県20代 男性》

1. 山元加津子先生の「愛」のお話

山元先生の話を聞いて「愛は愛でかえってくる」と学びました。山元先生が生徒に送る「愛」の深さに感動しました。自分はまだまだ子どもを愛せていないと痛感しました。子どもたちをさらに愛せるように、子どもたちをもっと知る努力をしようと思えます。

2. 赤塚高仁先生のパラオのお話

自分はまだまだ日本人になりきれしていないと痛感しました。そして、日本人のように日本を愛してくれている人がいることに驚きました。パラオの国旗の話には涙がほほをつたいました。そして、今こそ日本が結束するときであると感じました。

3. 武田数宏先生の命のお話

祖先がいるから自分がいるということを改めて感じました。命のリレーをしてくださった祖先を、そして親を大切にしようと思えるようになりました。今まで、「家族」について深く考えてきませんでした。が、「家族」について改めて考えさせられました。

《大阪府20代 男性》

1. 大谷育弘先生が一年も前からみがかく講習会のことを考え、動いてくださったこと。

自分たちは参加して、学ばせて頂くだけであるが、大谷先生が一年も前から講師の先生を山元先生にお願いする件など、すべての予定などを組んでくださったこと。中山先生からお聞きしたとき、まさに感動でした。いつも、ありがとうございます。自分にもできることがあればさせていただきます。

2. 山元加津子先生のお話

先生の話し方、接し方、すべてに愛があったと思います。にじみ出ていました。「だいすきはうれしい」の話がとても印象的でした。私も子どもたちにたくさん「だいすき」を伝えたくまりました。

3. 修養団の講師先生方のご講話

武田数宏先生のご講話。お母さんが息子に請求書を出したが、「養育費はすべてただ」というお話。「知ることの深さは愛することへの道」親への感謝の気持ちが一気にあふれてきました。自分が一生懸命生きること、親に精一杯感謝の気持ちをあらわしたいです。

《福岡県40代 女性》

1. 今年もみがく講習会に参加出来たこと。

健康でいれた事に感謝です。植林メンバーと再会できて、沢山の方々と出会えたこと。いいパワーをもらえました。

2. みそぎ（水行）ができたこと。

どう考えても、普通は真冬の川には、はいりません。禊ぎと思うから、できるんです。生きている実感、ビシビシ感じました。

3. 童心行

とにかく笑いました。必死になりました。Tリンパ球が、ナチュラルキラー細胞が、めちゃくちゃ活性化した時間でした。

《京都府40代 男性》

1. このプログラムの凄さ

今回途中参加させていただきました。開校式と童心行に出られなかったのですが、他の受講生の方々と明らかに、自分の「気力」が違うことを感じました。時間にして二〜三時間のこともかもしれません。そこに本当に大きな違いを感じました。

2. 講師の先生のお話のレベルの高さ

山元先生、赤塚先生のお話、心にすーっとしみ込みました。涙が止まらない場面がありました。実践があつてのお話だということも強く感じま

した。

3. ご縁のありがたさについて

みそぎ後の夜。部屋で思わず話し込んでしまいました。こんな方々と時間を共有できるご縁を本当に感謝しました。また、いつまでたつてもみんなの所へ来ない我々を心配して、島さんと斎田さんが部屋までわざわざ迎えに来て下さいました！心が本当に本当に温かく熱くなったことばかりでした。ありがとうございました。

《大阪府30代 男性》

1. 「分かった上で何も言わない」

武田先生のエピソードの中で、奥様が山元先生の本を買うというときに、自分はすでに持っているのに、何も言わずに自主的な行動を促したという話。教員をしている自分はいついつい先回りして、生徒に「教える」ことに躍起になっていることに気が付きました。

2. 「祈る」

山元先生は、宮ぶーさんの回復を祈ってらっしゃった。現代医療の現場から「不可能」と言われたのに、希望を持っていらっしゃった。坂村真民先生の「念ずれば花ひらく」が頭の中に浮かびました。「念」。何よりも、「想い」。そして「祈る」ということ。

3. 大谷育弘先生の姿勢

今回のみそぎは、感想文を「ベスト3」の形にして、簡潔にまとめる、という指示を頂きました。感想文という形をとると、どうしても修飾語（形容詞）が先行して、飾ってしまう感じがあると、ずっと思っていました。大谷先生はそれを今回、ずばり「もつと素直に、率直に。」という方向に持っていった下さいました。ご縁を頂いて5年ほどで、様々な活動、行動に誘って頂き、いつも学ばせてもらっています。「これくらいでよい」というのは微塵もなく「どうしたらもつとよくなるか」を常に考えていらつしやいます。常に「気迫」と「愛」の両方が溢れんばかりで、毎回感動を頂きます。

《大阪府20代 男性》

1. 赤塚高仁先生のお話

日本の話を中心としてお話されました。その中で日本についてどこまで知っているか？という問いかけに、自分自身なにも知りませんでした。今までこれだけ君が代を歌った覚え、経験はありませんでした。きっかけを与えてくださいました。ありがとうございます。

2. 参加者の皆さん

講習会にこんなに感性豊かな方々がこられて

いるのに対して嬉しく思いました。それぞれの思いは違うと思いますが、繋がりを心で感じる事ができました。ありがとうございます。

3. 立居振舞

上の方々が静かに見守りつつ、先頭となって行動されていたことに感動いたしました。正直なところ、上に立った瞬間に立派に鼻だけ伸びている方々をよく目にします。上の方々が行動で示していただけるから下の人も迷いなく行動ができるのだと感じさせていただきました。ありがとうございます。

《大阪府40代 男性》

1. 「大好きはうれしい」

今回は特に山元加津子先生のご講演が何より心に残りました。お話の内容ももちろんですが、お話とともに、お話をされる先生のお人柄が何より心を感じるものがありました。“愛”“愛情”の塊で誰に対しても平等、壁のない、そんなお人柄を本当に感じました。“こんな愛だけの人があるのか”ということが衝撃でした。

2. みそぎ（水行）

大谷先生のボンボリ、宮崎先生のお導きにより、安心して水行をさせていただくことができました。今回が一番心穏やかに水行をさせていただ

たように感じました。次回からもよろしくお願いいたします。

3. 童心行

個人的な感覚で申し訳ないのですが、心を開放することの大切さをとても感じました。純粹・素直な心の大切さ、自分が普段忘れていた感覚を思い出すことができたように感じました。

《三重県40代 男性》

1. おもてなしの心意気

修養団の講師のみなさんをはじめ企画していただいた方々の温かい心意気に感動せずにはいられませんでした。自分ではなく常に全体に目をやり気遣っていただいている視線を感じ続けました。とても温かく、安心して行を楽しむことが出来ました。感謝です。

2. 人は顔と同じように性格も選んで生まれてこれないこと

山元加津子先生のお話でこの言葉を聞いたとき、何人もの生徒の姿がよぎりました。いままでどれだけ自分に都合のいい「ものさし」で生徒を見てきたことか！懺悔したい気持ちでいっぱいになりました。

3. ふんどしの絆

年に1回みそぎでしかお会いしないのに、何十

年来の友に再会するような感覚になります。やはり、苦行を共に乗り越えた「ふんどしのご縁、絆」は最幸です！みなさん、来年もお会いいたしましょう！

《三重県30代 女性》

1. 赤塚高仁先生のお話

赤塚さんの話を聞いて、日本人として生まれたのに、何も知らなかった…衝撃を受けました！同時に、日本人として生まれたことに、今一度、誇りを感じました☆気づけたことに感謝し、神話や歴史について、日々、勉強し、子どもたちに伝えていきたいと思えます！

2. みそぎ（水行）

「命」が燃え、「生命」の強さを感じました！「生きていく！」「生かされている！」を、体感できるので、やめられません☆

3. 童心行

知らない者同士の距離が一気に縮まり、かつ笑顔になれる♪強面の先生が、あんなに、はしゃぐなんて…(笑)そんな姿を見るのが好きです☆

1. “生きている”を実感

はじめての水行でした。風が吹き、水の中は思っていた以上に冷たく、体はしびれているかのよう
に痛く、感覚が麻痺していくようでした。途中で
ドロップアウトしそうになりながらも、終えた
ときの感覚は一生忘れることはないと思います。
生きているって素晴らしいこと。大げさにも感じ
ることができました。

2. 感謝すること

どうしてか、頭でわかっているけど、親への感謝
やお世話になっている人に、なかなか素直になれ
ません。反省行では、改めて自分と向き合い、ま
たこれまでのことを振り返る貴重な時間になり
ました。自分が生きているのは、周りの方々のお
かげだから、少しでも素直な自分でいたいと思
いました。

3. 先生方の姿勢

参加されていた先生方のお言葉や姿勢に感動
しました。素晴らしい先生方が一堂に集まるとこ
んなことになるのかと、ただただ驚きと感動です。
尊敬する先生方と修養団で共に過ごせたことが、
僕にとつての貴重な経験。一日だけの参加でい
が、考えたこと、学んだことを大切に生きていき

たいと思います。ありがとうございました。

1. 修養団の方の点呼

あれだけの参加者数にもかかわらず、しかも私
は初参加だったのに全員の名前を暗記されてお
られ、ただただ驚きでした。顔がわかっている
なかなか覚えられない名前。一番最初に感動した
ことでした。

2. なんといっても水行

水からあがったときの血流に驚きました。体中が
波打ちました。
あんな感覚は他ではできませんね。
水行は人生で一番の衝撃体験だったかもしれま
せん。でも楽しめました。

3. 水行が終わったあとの「おめでどうござ
います！」

水行のあと大きな畳お部屋で全員で声を揃え
「おめでどうございます！」とお辞儀をしたとき
に何かこみ上げてくるものがありました。とても
清々しかったです。

1. 愛国心が増した

日々の生活の中で「日本」を感じることは、日本
人が世界で活躍しているのをブラウン管越しで
見ているとき。特にサッカーのワールドカップの
ときに合唱する「君が代」は、いつも鳥肌が立ち
ます。襖を通じて、より一層日本のために。とい
う思いが増しました。

2. 両親への感謝の気持ち

ろうそくを片手に、心に響くお話をいただきま
した。ごちそうさまでした。「やらなあかん。」
って思っていること、できていないこと、これか
らのこと。ジーンとききました。自分なりに、教科
書通りにはできないかもしれないけど伝えたい
と思います。一番、グツとくるお話でした。

3. 水行の真実

メインディッシュでもある水行。もう途中で「こ
れ以上は、無理だ。」となりましたが、なんとか
やり遂げることができました。入る前は、何度か
正気に戻り「なんで入るの？」と何度か心の中で
笑ってしまいましたが、顔には笑いを出すことな
く、真顔で突き通すことができました。改めて全
身で生きることを見つめ直す、いい機会を体験

できました。一年に一回は、頭だけではなく全身で、生きることを見つめ直す機会は、必要だなあと。来年は、火の中に入りたい。

《兵庫県40代 男性》

1. 小林正樹さんの存在

人の痛みを自分の痛みとしてこれほどまでに感じることでできる山元加津子先生は天使です。今まで、羽をつけて飛んでいるのが天使だと思っただけでしたが、加津子先生のような無償の愛で行動されている人を天使というのだと感じました。

しかしながら、加津子先生は極度の方向音痴だそうです。握力が「7」ということもあり、荷物を持つて自分一人で講演会場へ行くことが難しいのだそうです。そこで、自ら私設マネージャーとして、交通費等は自費で、全国の講演会場へと同行されているのが小林正樹さんです。小林さんの存在がなければ、加津子先生の役割や使命を活かすことができません。十年以上続けられている小林さんの使命感と心意気に感動しました。

2. 甘酒の差し入れ

初日の夜十一時、自由参加の体験発表会を行いました。毎年ほとんどの方が参加し、熱い思いを語って下さいます。

その際、島さんと斎田さんのお二人が、私たちのために百人分の甘酒を用意して振舞って下さいました。普通の主婦の方が、この時間帯にお越し下さった事を考えました時に、どれほど私たちが応援して下さいるかを感じました。

3. 水行を見事に成し遂げた中学一年生

中学一年生が自分の意思でこの会の参加を決めたそうです。しかも仲間を誘わず一人で参加しているところが素晴らしいです。笑顔で積極的に大人の中に溶け込んでいる姿。そして、黙って弱音を吐かず水行（みそぎ）を成し遂げました。自分自身に負けず、首までしっかりと浸かっている姿に感動しました。（写真右端後方）

